

## 再びごみ山崩落事故が起きないように

2010年5月21日

既にご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、ここ数カ月、ケソン市パヤタス地区のごみ山の高層化のスピードが増しています。2000年7月に崩落事故で大勢の犠牲者を出した旧ごみ山は、長年閉鎖されていましたが、一昨年より投棄が再開され、手前の新しくできたごみ山と、その古いごみ山の高さが同じ高さになり、一体化して巨大な一つの山が形成されようとしています。先月末に、ごみ山の麓の居住区、ルパンパガコ地区から撮影した画像を添付します。

94年から、当地でダイケアセンターを運営しているフィリピン人の住民組織の方に話を聞いたところ、高層化に対する住民の不安の声は大きく、この間、再三 Payatas Operation Group (POG) という管理事務所に、懸念を訴え、対策を求めているということでした。しかしながら、POG側は、「崩落事故後に定められた投棄の傾斜角度を守っているから大丈夫」の一点張りで、変化がないとのことでした。

今後、雨期に入っていきますが、現状が放置され、今年の台風のような大規模な水害や地震に襲われれば、再び2000年のような大惨事となる可能性もあります。事故からちょうど10年目に当たる今年、複数の団体で、人道支援の立場から正式な形で市側に懸念を示すことによって、現地住民のアピールを後押しできるのではと考え、以下のお願いを含む、嘆願書を、市長宛てに提出することとしました。5月中に1度、その後、反応や経過を見守りつつ継続して賛同者を募り、6月、7月にも提出を予定しています。

崩落の痛ましい事故と、その後の様子を現地で見えてきた団体として、何かできることをと強く思う次第です。ご賛同いただける方、また団体を募集しております。

よろしくお願い申し上げます。

フィリピンのこどもたちの未来のための運動(CFFC)  
特定非営利活動法人ソルト・パヤタス

\*\*\*\*\*  
<嘆願書>

2010年5月25日

ケソン市長 フェリシアノ・ベルモンテ殿

経由： パヤタス作業管理室長 ロベルト・ジェイマリン (将軍) 殿

ベルモンテ市長殿、

ここに連名した私たち、パヤタス、ルパン・パガコ地区で活動するNGO、およびその協力団体は、パヤタス作業管理室長を通じ、貴事務所に対し、同地区に面するごみ山の高さの見直しを、謹んでお願い申し上げます。ごみ山は時を経るごとにどんどん高くなっています。

10年以上に渡り同地区で活動を行ってきたNGOとして、私たちは支援者と同様、ごみの崩落事故の再

発を恐れ高層化に不安を訴える住民と一体です。私たちは、パヤタス作業管理室が、ケソン市を清潔な都市にするため、ある程度まで投棄活動を調整することに最善を尽くしてきたことは存じております。これに関し、POGがパヤタスごみ投棄場を継続的に管理された処分施設として運営し、また操業における秩序と衛生を維持していることに関して高く敬意を表するものです。

私たちの関心事は、可及的速やかに、貴事務所がPOGを通じ、再び以下のことを行われることです：

- ルパンパゴコ居住区に面するごみ捨て場の、日々変化する傾斜と高度に関する研究および調査を行うこと
- 適切な技術者による厳格な指導と監視により、構造的に健全なごみ投棄場を維持すること
- ごみ投棄場の状況および当地域で発生した事象を、地域住民に対し定期的に告知すること
- 住民、関係者個人および当局者によるごみ投棄場の傾斜と高度に関する定期的な監視と情報発信を行う（指定された場所に）監視台を設置すること

2010年7月10日は、ごみ崩落事故から10年目にあたります。私たちは再びごみ山崩落を経験したくはありません。再発を防止するために私たちは共に働かなければならないと思います。

貴事務所の速やかな行動を希望し嘆願致します。

敬意をこめて

以下賛同団体

特定非営利活動法人アクション  
アムネスティ・インターナショナル日本  
フィリピンのこどもたちの未来のための運動(CFFC)  
特定非営利活動法人草の根援助運動  
国際ソロプチミスト京都ーわかば  
立命館大学 国際NGOサークル RitsBLOH  
特定非営利活動法人ソルト・パヤタス  
SONG フィリピン教育支援の会  
Save the African Children